

# 経営比較分析表

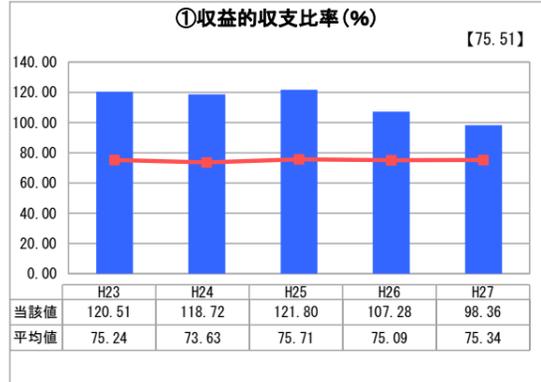
新潟県 津南町

業務名	業種名	事業名	類似団体区分
法非適用	水道事業	簡易水道事業	D2
資金不足比率(%)	自己資本構成比率(%)	普及率(%)	1か月20m <sup>3</sup> 当たり家庭料金(円)
-	該当数値なし	91.21	1,944

人口(人)	面積(km <sup>2</sup> )	人口密度(人/km <sup>2</sup> )
10,306	170.21	60.55
現在給水人口(人)	給水区域面積(km <sup>2</sup> )	給水人口密度(人/km <sup>2</sup> )
9,307	17.32	537.36

グラフ凡例
■ 当該団体値(当該値)
— 類似団体平均値(平均値)
【】 平成27年度全国平均

## 1. 経営の健全性・効率性



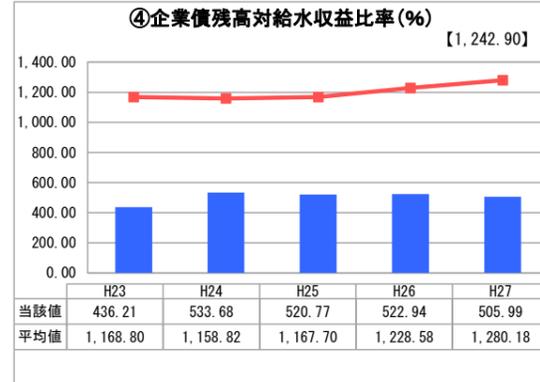
「単年度の収支」



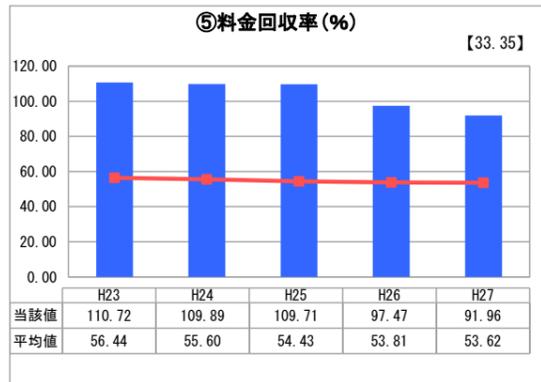
「累積欠損」



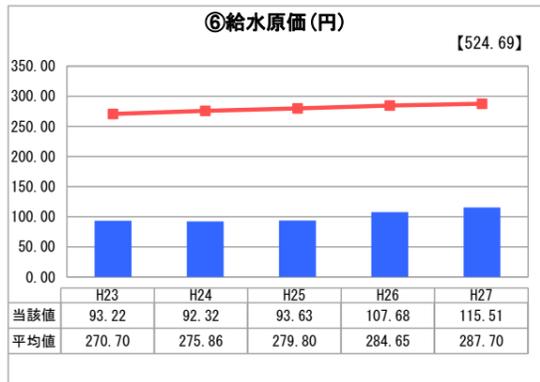
「支払能力」



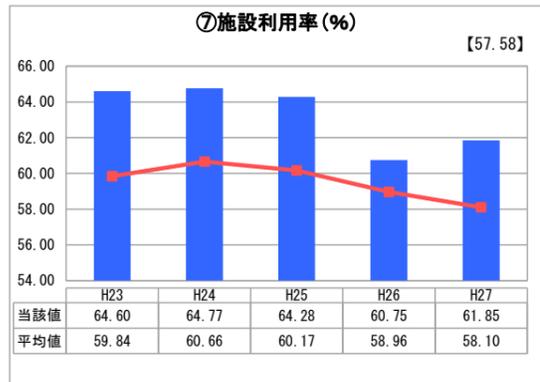
「債務残高」



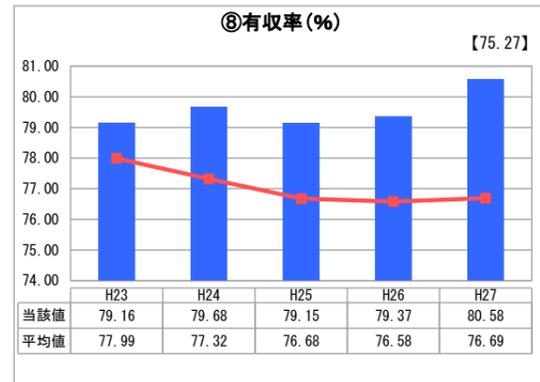
「料金水準の適切性」



「費用の効率性」



「施設の効率性」



「供給した配水量の効率性」

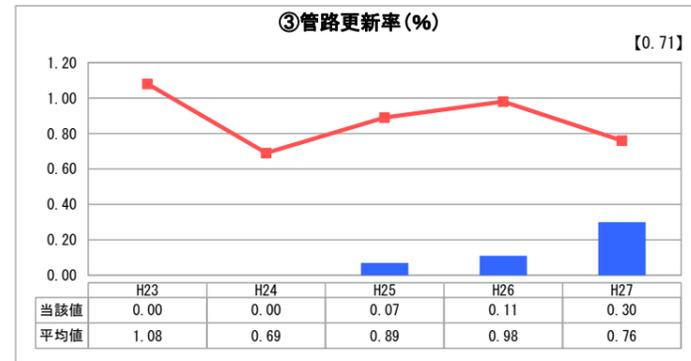
## 2. 老朽化の状況



「施設全体の減価償却の状況」



「管路の経年化の状況」



「管路の更新投資の実施状況」

## 分析欄

### 1. 経営の健全性・効率性について

- ①収益的収支比率  
類似団体と比べ、高水準を維持しているものの、一般会計繰入金に依存している面もある。H27年においては将来的に予定される水道事業統合に係る費用の増加により、100%を下回る状況となっており、費用削減等の改善を図る必要がある。
- ④企業債残高対給水収益比率  
類似団体と比べ低い数値を維持している。しかし、H28年以降も起債の予定があり、加えて管路や給水施設の老朽化に伴う更新等により起債することも考えられ、今後の数値が上昇する可能性がある。
- ⑤料金回収率  
100%付近で推移しており、給水に係る費用を給水収益でほぼ賄うことができているものの、給水原価の上昇等から年々下降傾向にあり、H26年度からは100%を僅かに下回る状況となっている。
- ⑥給水原価  
類似団体と比べ低く、適切な数値と考える。しかし緩やかであるが年々上昇傾向にあり、⑤料金回収率の低下要因にもなっていると考えられる。今後は有収水量の確保や費用の削減等が求められる。
- ⑦施設利用率  
類似団体に比べやや高い数値であり、季節による需要変動等を考慮しても適切な施設規模であると考えられる。
- ⑧有収率  
類似団体に比べ高い水準であり、施設からの配水量が効率良く収益につながっていると判断できる。

### 2. 老朽化の状況について

- ③管路更新率  
H5年からH21年にかけての下水道布設工事との同時施工で、主要管路については耐用年数の長い塩ビ管やポリエチレン管に更新している。そのため近年において更新は実施しておらず、類似団体平均を大きく下回っている。現状、老朽化が進んだ管路も残っているため、適切な維持管理が必要である。

## 全体総括

類似団体比較では、各表において良好な数値を示しており、健全な経営が行われているといえるが、収益的収支比率、料金回収率等の低下により、当町における経営状況の悪化が読み取れる。人口減少に伴う料金収入の減少等から、今後さらに経営状況の悪化が想定されるため、料金改定も視野に入れた経営を行うべきである。  
老朽化の状況についても、計画的な補修・更新を行い、維持管理の安定を図る必要がある。

※ 平成23年度から平成25年度における各指標の類似団体平均値は、当時の事業数を基に算出していますが、管路更新率については、平成26年度の事業数を基に類似団体平均値を算出しています。